

農業振興部門
全国水土里ネット会長賞

宮城県
愛宕地区

(株)愛宕産土農場

転作作物の栽培拡大で担い手の意識が変化
法人を設立し、枝豆の導入で経営も安定

乾田化により大豆栽培を開始
米価低迷の中で救世主に

位置図



の施工によって水田の汎用化が可能となりました。

これにより、愛宕地区では転作作物として大豆の栽培を開始し、米価が低迷する中で所得安定の救世主となりました。現在は、ニンジンやホウレン草、加工用トマトなど、多様な作物を栽培しています。

「一集落一農場」の理念のもと
法人に農地と農作業を集約

転作作物の栽培が拡大すると、「集落内の作業は集落内で対応する」という意識が担い手に芽生えました。そして平成12年、集落の中核農家3名が「愛宕生産組合」を設立。地区内の農家から農作業を受託し、作業の共同化を図りました。しかし、高齢の農家から水稲栽培の委託相談を受ける機会が増えると、作業の受委託だけでなく、計画的な土地利用と農作業実施の必要性が高まります。そこで平成19年、生産組合から移行する形で、「一集落一農場」の理念を掲げる法人「(株)愛宕産土農場」を設立しました。

生産組合の頃から集落内の信頼を得ていたため、法人化する際の農地の賃貸借契約と作業受委託も円滑に進み、現在は地区の8割がこの法人の耕作面積となっています。さらに、作業受委託から利用権設定への移

行も進み、46・2%の農地が同法人に集積されました。

同法人は、所得向上と経営の安定も実現しました。当初は水稲と大豆のみを栽培していましたが、秋の収穫時に収入を得るだけでは経営が不安定だったため、通年での収入確保を模索します。そんな折、地元菓子店から「ずんだ」の材料である枝豆の生産を打診され、大豆の作業機械を利用した枝豆栽培を開始。平成20年度から洋菓子店と出荷契約を結び、



「ずんだ」を使って様々な商品を開発

秋以外の収益確保と雇用の安定が図られました。平成21年には、農工商等連携事業の計画認定を受け、枝豆の一次加工が可能な冷凍枝豆施設と機械を導入し、年間を通して出荷が可能になったことから、地区外にある仙台市の餅店とも取引を開始しました。

今後は6次産業化にも取り組み、法人化を目指す他、地区の模範として地域を牽引していきます。



水田汎用化により枝豆を作付け

と、農業の生産性向上を求めて、基盤整備事業の機運が高まりました。そこで、平成10年から経営体育成基盤整備事業を実施。1000a区画のほか、排水路の分離と暗渠排水

事業概要

事業主体	宮城県		
事業名	経営体育成基盤整備事業		
工期	平成10年～平成15年		
受益面積	25.7ha	受益戸数	41戸
標準区画規模	事業実施前 10a → 完了後 30～100a		
1ha以上の区画合計面積	事業実施前 0ha → 完了後 6.4ha		
主要工事	区画整理工、用水路工、排水路工、道路工、暗渠排水工		
関係土地改良区	真坂土地改良区		
関係市町村	栗原市		